

三鷹市の病児保育事情

加戸 宏 幸 上山 和 華
久保田 太 郎 小峰 弘 寛
佐藤 健 太 佐藤 朝 日
中嶋 慧 悟 深谷 一 勤

杏林大学医学部1年 Nグループ

【目的】

病児保育とは、通常の保育園もしくは幼稚園に通園中のお子さんが病気を患った場合に一時的に保育を行うものである。昨今我が国において、夫婦が共働きであることは珍しくはない。この状況において突然の子どもの発病は、親の就労の継続を困難なものとする。病児保育は親の就労の継続性を担保するものである。したがって現在我が国が行っている、男女共同参画社会推進の重要な要素の一つと考えた。本活動において、三鷹をフィールドワークの場として、病児保育施設、市役所への聞き取り調査を行い、考察を試みた。

【方法】

調査は2015年10月に三鷹市内の病児保育施設2箇所、三鷹市役所に聞き取り調査を行った。調査項目は病児保育施設に対して、実際の利用状況やニーズ見込み、病児の年齢、病状、保護者の職業である。三鷹市役所については、市役所発行の『三鷹子ども・子育て支援事業計画』にて上記の項目について回答をいただいた。

【結果及び考察】

病児保育施設の利用状況は、平成25年度において、施設Aで818人、施設Bで136人であった。平成27年度におけるニーズ見込みは6657人であり、これに対して確保方針は1200人である。平成27年度から平成30年度までのニーズ見込みを平均すると6583人となり、いずれの年度も平均5233人の枠の不足が予想されている¹⁾。

施設Aにおいて818人のうち利用した子どもの年齢は0～8歳であった。もっとも人数の多い年齢は39%の1歳児、ついで16%の2歳児であった。利用の少ない年齢は10%未満の5歳から8歳の子どもであった。利用の原因となった病状は、81%の発熱がもっとも多く、下痢(9%)、咳(4%)、嘔吐(4%)、骨折(2%)という内訳であった。保護者の職業は、会社勤務と医療従事者がともに35%ずつを占めていた。その他は福祉・役所関係(6%)、学校関係者(5%)、保育士(4%)、自営業(3%)、パート(1%)、学生(1%)、不明(10%)という内訳であった。

病児・病後児保育施設の利用検討状況について、利用を考へなかつた理由としてもっとも多いものは、慣れない施設で子どもが心配である事、ついで登録や診療などに手間がかかる事があげられた¹⁾。これにあたって施設は、ネットを利用した子どもの保育状況のモニタリングを行い保護者に開示する事や、初回の利用時に会員登録し利用の手間を軽減する等の対策を講じている。

三鷹市の病児保育の現状としては、親の就労の継続性に対して有益性を持つが、その利用が一部の人々に限られている状況である。その理由は病児保育施設の不足や、その実態の広報が足りず利用に踏み切れていない事が考えられる。両親の双方が社会的に重要な立場を担う傾向にある現代において、病児保育施設の担う役割を考へ推進する事は、男女共同参画社会の重要な要素になると予想される。

【参考文献】

- 1) 三鷹市子ども政策部子育て支援課：三鷹市子ども・子育て支援事業計画：19-30, 2015.